日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部

発行人：阿波谷,大原,板東,川本,澤田
事務局　〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛
Tel. 087-876-1185　Fax. 087-876-3795
E-mail　oharamasaki@gmail.com

## ★1　「第 22 回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部大会」（第 3 報）

美波町国民健康保険美波病院（徳島）　本田　壮一

11 月開催の「第 22 回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会/第 29 回四国地域医学研究会合同学術集会」が、近づいてきた。

日時：2022 年 11 月 19 日（土）、20 日（日）
場所：徳島大学藤井節郎記念ホール、および、Zoom
（〒770-8503 徳島市蔵本町 3-18-15、電話：088-633-9420）
会費：無料

すでに第 2 報でプログラムを示したが、本稿では変更点（下線で示す）、そして学会の「みどころ・ききどころ」を紹介する。テーマは「四国で学び、日本の未来に寄り添うプライマリ・ケア」。ポスターを示す（図 1）。

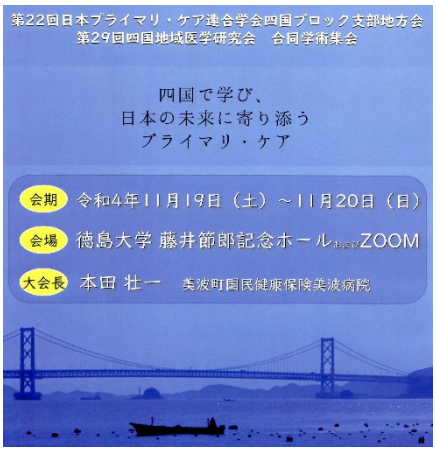



図 1 ：「22 回 PC 四国」のポスター

### 【第 1 日目】11 月 19 日（土）

四国地域医学研究会の総会後、14 時から開会式。来賓のスピーチとして徳島県医師会の斎藤義郎先生にご挨拶をいただくことになった。地域医療、特に最近の COVID-19 診療において、プライマリ・ケアに期待するとお話いただけると思う。

一般演題（その 1）が 14:10～15:10。9 月 1 日より、演題募集が開始されている。四国内外でのプライマリ・ケアの実践など、どしどし応募いただきたい。

そして、日本プライマリ・ケア連合学会の理事長のご挨拶（15 時 15 分から）。草場鉄周先生（北海道家庭医療学センター）が徳島市の会場に来ていただけることとなった。わがＰＣ学会の現況・方向性と地方会への期待をお話しいただく。残念なことは、翌日に理事会があるため、同日に東京へ戻られること。

次に、大会長講演（15 時 25 分から 16 時 15 分）。私が、美波町国民健康保険美波病院を中心に取り組んだ「徳島県南部でのプライマリ・ケアの実践」についてお話する（座長は板東浩先生）。そして、16:20～18:00 のシンポジウム「頻発する災害とプライマリ・ケア～地震・津波、COVID-19、そして～」のテーマで 4 人の演者が登壇（表）。座長は藤原真治・山口治隆の両先生。

**表：シンポジウムの演者（敬称略）とタイトル**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 上山裕二 | 南海トラフ巨大地震に備えた地域における救急シミュレーションコースの開催 |
| 2 | 林秀樹 | 南海トラフ災害に対する AMDA などの取り組み |
| 3 | 三村誠二 | 徳島県における新型コロナウイルス感染症対応 |
| 4 | 中園雅彦 | ランサムウェアの脅威に対応した半年の軌跡 |

図 2 ：三村誠二先生
（徳島県庁、9 月 4 日）

特に、三村誠二先生（国立病院機構本部 DMAT 事務局 次長）の演題が興味深く、抄録も紹介する（図 2）。7 月に徳島県立中央病院・COVID-19 入院調整本部から立川市へ異動された。

COVID-19 の対応は、全国に拡散するにつれて「感染症による災害」としての認識が確固となった。当徳島県においても、2 年以上に及ぶコロナ災害で、多くのクラスターに対応してきた。当県における感染者数の急増は、第 4 波から認められた。

令和 2 年 4 月 1 日、県庁の徳島県新型コロナウイルス感染症対策本部の下に、徳島県新型コロナウイルス感染症入院調整本部が設置された。入院調整本部は、当初本部長、災害医療コーディネータ、統括 DMAT、医師会リエゾン、事務職員、あわせて 10 名弱のメンバーだったが、その後の感染者の急増に合わせ、徐々に規模を拡大した。陽性者の初回健康聞き取り、物資支援、入院調整、搬送調整などが主な業務となった。経過として、第 4 波では、クラスター発生とともに重症者数・死亡者数が増加。第５波ではワクチン接種、中和抗体療法により、重症者、死亡者ともに減少。第 6 波では爆発的な陽性者増加、重症者増加、医療施設の逼迫が起こった。フェーズに合わせて、入院調整本部の業務も変化した。

新型コロナウイルス感染症対応は、感染症対策から災害医療対応となり、現状では地域医療と変化してきた。感染者に対する偏見や差別から起こる混乱が、今回の災禍の本質である。クラスター発生施設への寄り添い型支援、地域医療への帰着を目指した受け入れ医療施設の拡大など、診療の日常化への道は続く。

18:10～18:50 は、四国ブロック支部の総会。阿波谷敏英支部長のご説明の下、四国支部の現況がよくわかるので、必ずご出席を。

19:30 からは、Zoom を用いた交流会（オンライン意見交換会）。オミクロン株収束の直後で、やはり集うことはできないし、一緒に会食はできない（懇親会のない学会が、いつまで続くのか？）。河南真吾先生が司会を務め、各自夕食や飲み物（アルコールＯＫ）をとりながら、楽しい懇談の時間になると期待している。

**【第 2 日目】11 月 20 日（日）**

午前 6:20～7:00　（徳島中央公園：ラジオ体操・ファンラン）：

2 日目の学会の前に、徳島中央公園を案内したいと思う（その１）。蜂須賀家による四国で最も大きな藩の徳島城跡。天守閣は再建されていないが、石垣に当時の面影が残る。毎朝、あさひ売店前（こ線橋を渡ったところ）で、ラジオ体操が行われている。20 分頃からみんなの体操、そしてラジオ体操第一、第二。その後、徳島県民体操（または、市民体操）を行い、鬨の声を上げる。知人らと一緒に、蜂須賀家正像を見て城山を登る（標高 66m）。そして山頂広場で、紀伊水道を眺めながら、一緒に大声を発すると爽快である（図３）。

図３：旧徳島城表御殿庭園の石橋を渡る

2018 年 10 月に全国国保診療施設地域医療学会が徳島市で開催され、同じファンランを用意したが、台風接近で中止となった。西村真紀先生らと、地方会の松山（道後）・高知（高知城周辺）や、全国学会の高松（築港から栗林公園へ）にて、早朝ファンランを楽しんだのが懐かしい。天気がよければ一緒に歩き、歴史を感じていただきたいと思う。また、ウェブ参加の諸先生には、当日の記録をＳＮＳなどで紹介する予定である。

8:30～10:30 には、ポートフォリオ発表会。原穂高先生（松山市）が、監修される。症例報告を越えて、“to do”から“to trust”となるような教育の機会としたい。

10:30～11:30 には、一般演題（その２）のセッション。四国 4 県から演題が集まることを期待している。

そして、お待ちかねの教育講演（11:30～12:30）。島根大学医学部附属病院総合診療医センターの白石吉彦先生による「徳島から隠岐へ、そして総合診療医育成の道へ」。座長は谷憲治先生で、徳島県医師会の地域医療連携委員会（私は副委員長）にも案内している。熱い志を聴くことができ、テーマの「四国から全国へのプライマリ・ケア」の実践者と考えている。

12:40～12:45 に閉会式を行い、2023 年の香川県へ繋いでいく。あとかたづけ・昼食の後、徳島城公園へ（その２）。13：30 から、旧徳島城表御殿庭園の散策を計画している。入園料は 50 円。この日本庭園は、見所満載（図４）。時間があれば、併設の徳島城博物館の観覧（入館料に庭園見学料が含まれている）も勧めたい。

他にも、サプライズの企画があるかもしれない。COVID-19 が落ち着いていれば、是非当日に徳島市へ足を運んでほしい。

なお、No.39（2022. ９）の第２報において、文末のＵＲＬが文字化けしているのに後になって気づいた（「エラー！ ハイパーリンクの参照に誤りがあります」）。下記のように訂正する。

図４：徳島城のジオラマ（徳島県立博物館）

【参考 URL】

1)地方会の情報

⇒http://www.primary-care.or.jp/primarycare-shikoku/archive/index.html

2) AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議⇒https://nankai.amda.or.jp/

3)三村誠二：『新型コロナウイルス感染症がそこにある時代』. とくしま医師バンク通信ドクターカモンメール VoL.146（2020 年７月号）

⇒https://www.pref.tokushima.lg.jp/dr-bank/mailmaga/back_maga/5038947/

4) DOCTOR’S MAGAZINE 2022 年３月号 No.266 にて 白石吉彦センター長が表紙に登場 ロングインタビューが掲載されました(NEURAL GP Network)

⇒https://shimanegp.com/1248/

5)本田壮一、河南真吾、藤原真治、大倉佳宏 他：四国で学び、四国の未来に寄りそうプライマリ・ケア（徳島県支部のあゆみ）. 第 13 回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 横浜市、2022 年 6 月

⇒https://jpca2022.org/

文末に、「22 回 PC 四国」準備委員の諸先生を示す（再掲、敬称略）。

**大会長**：本田壮一（美波町国民健康保険美波病院）、**副大会長**；藤原真治（木屋平診療所）、河南真吾（吉野川医療センター）、**事務局長**；大倉佳宏（徳島大学病院）、**顧問**：板東浩（徳島大学/小松島病院、徳島支部長）、谷憲治（徳島大学、第 10 回四国支部大会長：2010 年）鎌村好孝（徳島県保健福祉部）、白川光雄（宍喰診療所、第 14 回支部大会長：2014 年）、山口治隆（徳島大学/田岡病院、第 18 回支部大会長：2018 年）

## ★２　「阿波の名医」

美波町国民健康保険美波病院（徳島）　　本田　壮一

「22 回四国ＰＣ学会」は、４年前と同じく、徳島大学蔵本キャンパスにある藤井節郎記念医科学センターで開催される。この機会に、徳島大学の２つのキャンパスを紹介する。常三島（じょうさんじま）キャンパス内の総合科学部には、ユーカリの高木がある。コアラが好む木であるが、前身の師範学校のころ、徳島で教育が発展するよう、旧制中学（現在の城南高校）や女学校（現在の城東高校）とともに植えたという。近年の大学人の使命は研究・診療・教育の３本柱に、国際協力・地域貢献が加わっている。一方、地域医療でのプライマリ・ケアでは診療が主になるが、「連携・教育」もキーワードであると感じる。

もう一つの蔵本（くらもと）キャンパスには、人名を冠した講堂や研究所が３つある。１つ目は大塚講堂。私たち(1983 年卒)の入学式や大学祭のコンサートを行ったホールも老朽化し、2013 年にきれいに改装された。

鳴門市には大塚製薬という企業があり、製塩業から輸液・飲料・食品と、会社を発展させた創業者、大塚正士（1916～2000）の寄付による。薬学部には長井記念ホールがある。長井長義（1845～1929）は化学者であり、ドイツに留学し、エフェドリンを抽出し日本薬学会の会長にもなった。

そして、３つ目が藤井節郎記念医科学センター（図１）。藤井節郎（1925～1984）は、酵素研究施設（現在は、疾患酵素学研究センター）の教授。薬剤の FOY、5-FU、フサンの F は藤井先生のイニシャルで、開発に携わった。大学祭（蔵本祭）で、門下生の齋藤康先生（前千葉大学・学長）の講演をこのホールで拝聴したのを思い出す。学会会場の横にギャラリーがあり、是非、藤井節郎の業績を学んでほしい（図２）。

図１：医科学センター（徳島大学）

図２：藤井節郎先生のギャラリー

◇　　◇　　◇

当医学科の同窓会を、徳島名産の阿波藍から「青藍会」と名付けている。今回の大会長講演の座長をお願いしている板東浩先生は、長らく広報委員で活躍されている。年２回発行される同窓会報に、「阿波の名医」というエッセイを連載され、関寛斎（阿波の赤ひげと称されている）や、三宅速（アインスタインと親交のあった外科医）・中田篤郎（徳島大学の初代学長、法医学）などの輝く先達を紹介されてきた。この度、書籍としてまとめられた（図３）。出版を記念して徳島大学のガレリア新蔵で、展示会が開催される（10 月 20 日から 2023 年２月 28 日まで）（図４）。是非ご観覧を願う。

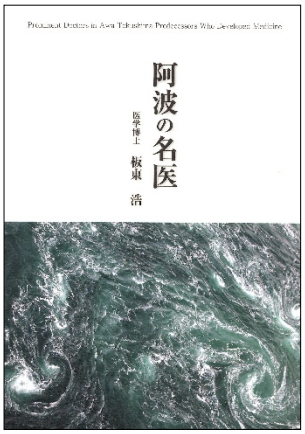



図３：阿波の名医

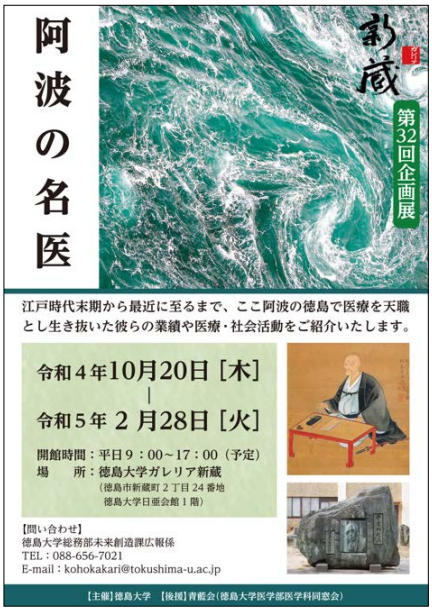



図４：徳島大学本部・ガレリアにおける展示会ポスター

【参考ＵＲＬ】

１）藤井節郎記念医科学センター　⇒https://www.fujii.tokushima-u.ac.jp/

２）青藍会　⇒https://www.seirankai-tokushima.jp/

３）ガレリア新蔵⇒https://www.tokushima-u.ac.jp/gs/

## ★３　第５回 徳島県地域包括ケアシステム学会学術集会

美波町国民健康保険美波病院（徳島）　　本田　壮一

このニュースレター（No.37（2022.3））にも紹介したが、徳島県地域包括ケアシステム学会（ToCCS）には、徳島県内のＰＣ学会会員も多く参加し、私も理事の一人として参画している。その第５回学術集会[1)]が、さる 2022 年８月 28 日(日)、徳島大学蔵本キャンパスの大塚講堂で開催され、ライブ配信された。その模様を紹介する（図１）。

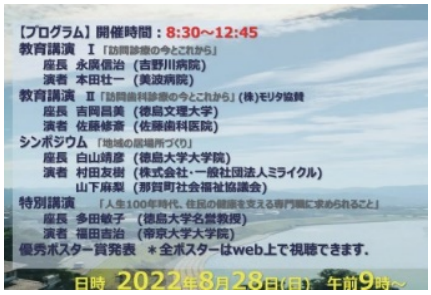



図１：ToCCS のプログラム(2022.8)

第５回の大会長は多田敏子先生（精神看護学、徳島大学名誉教授）。テーマは、「必要な人に、必要な時に、必要なサービスを」。コロナ禍のため、演者や関係者のみが蔵本キャンパスに集まり、学会の映像が同時に配

信された。

多田大会長・永廣信治理事長・来賓の榎本芳人さん（四国厚生支局長）らの挨拶で始まった。教育講演Ⅰとして、私が「訪問診療の今とこれから」と題して解説した（図2）。「治し支える医療」のため、介護保険委員会（徳島県医師会）の活動や訪問看護、他の病院・診療所の連携が重要であることを示した。教育講演IIは、佐藤修斎先生（徳島市）。「訪問歯科診療の今とこれから」と題して、佐那河内村までの訪問など、訪問歯科診療の実際を紹介された。

図２：教育講演Ⅰにおける著者の発表
（座長はToCCSの永廣信治理事長）

次に、シンポジウム「地域の居場所づくり」が行われた。まず、村田友樹さん（阿南市の(株)ミライクル）。保育園から始め、シャッター街化していた阿南市の市街地に、地域子育て支援拠点事業とカフェを融合した施設である『CAFE and BARNuuN』をオープンさせた。在留外国人の支援（外国人総合相談センターの開設）を考えている。

2番目のシンポジストは、山下麻梨さん（那賀町社会福祉協議会）。高齢化率60%に近い那賀町木頭地区での活動を発表された。木頭学園のPTA会長から、数学塾（マミー塾）を始め、KITOWAKAISHIMEETING（20代から40代。おひとりさま会や女子会、ママ友会））
に発展した。地域のマンパワーとして、楽しく地域づくりを行っている。両者とも工夫により、人口減の地域社会に活気づけていると感じた。

特別講演は、「人生100年時代，住民の健康を支える専門職にもとめられること」と題して、社会疫学や社会的決定要因（SDH）を主な研究分野とする福田吉治教授（帝京大学）が講演された。人生100年時代は、住民とともに専門職にも当てはまる。私たち専門職は専門職として100年間（専門職としては60年間くらい？）をどう生きればよいのだろうか。『保健師の悩み解決ガイドブック』[2]では、“あいまいなさ”が強みと。「人生100年時代はマルチステージであり、アップデートが必要」と。知識や技術が急速に変化し、あっという間に時代に取り残されてしまう。私たち専門職も、学び直し、時に道を少し逸れてアップデートすることが必要とされていると話された。

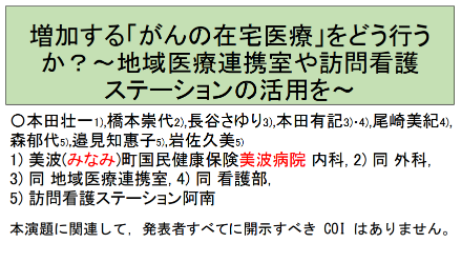



図３：がんの在宅みとり（ポスター）

私どもは「増加するがんの在宅医療をどう行うか？～地域医療連携室や訪問看護ステーションの活用～」という題で、ポスター発表した（図３）。優秀ポスターには、高橋舞さんらの「介護予防事業に参加する高齢者のQOLとソーシャルキャピタル」が選ばれた。

今回はコロナ禍のため短縮して開催され、聴衆と顔を合わす機会がなかった。演者や座長の皆様と交流ができた（図４）。是非とも、次回2023年8月には、会場に参集し議論したいものである。

図４：演者、座長など関係者の皆様と一緒に
（大塚講堂、令和４年８月28日）。

【参考】

1）第５回 徳島県地域包括ケアシステム学会学術集会⇒https://www.toccs.jp/gakkai.php
2)保健師の悩み解決ガイドブック⇒http://e-kennet.mhlw.go.jp/wp/wp-content/themes/targis_mhlw/pdf/AIMAIbook_High.pdf

**注**：ToCCSのホームページにも、「22回四国ＰＣ学会」のポスターを掲示していただいている。

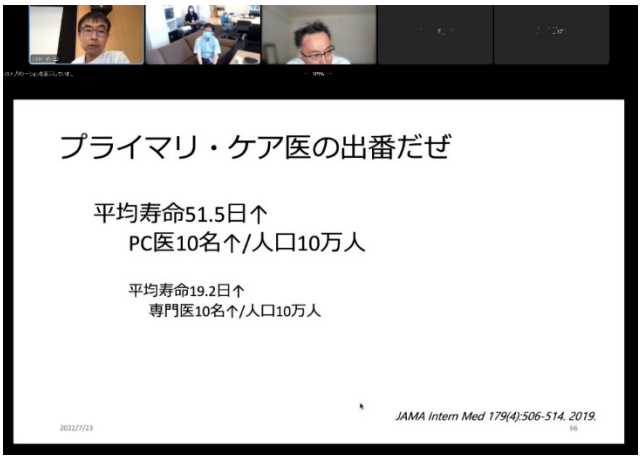
## ★4　2022 年度第 1 回ポートフォリオ発表会&総合診療セミナーを開催します

高知家総合診療専門研修プログラム
事務局　阿波谷敏英　（高知大学）

高知家総合診療専門研修プログラムと高知県立病院群総合医・家庭医養成後期研修プログラムと合同で、7 月 23 日（土）オンラインでポートフォリオ発表会、総合診療セミナーを開催しました。

前半のポートフォリオ発表会では、両プログラムの専攻医から、それぞれの経験に基づいた、教育や臨床に関わるポートフォリオを発表いただきました。心理社会的に複雑な事例など総合診療医・家庭医として積極的に取り組んだ様子もうかがえました。指導医を交えたディスカッションもそれぞれの専攻医の成長を促してくれているように思います。

後半の総合診療セミナーでは、川崎市立救急災害医療センター長 田中 拓 先生に、「～救急専門医から総合診療専門医、家庭医療専門医に伝えておきたいこと～」というテーマでご講演いただきました。総合診療医には、救急の現場では心肺蘇生、高齢者救急でのリーダーとして良好なチーム作りに関与して欲しいと強調されました。また、マイナー外科、異状死などにおいても総合診療医に役割を担ってもらうことも期待していることを、実際の対処法などを示しながらお伝えいただきました。最後に、総合診療医には医療をつなぐこと、医療と家庭をつなぐことが大切で、職種、立場を超えて、敬意をもって、同じ方向で進み、やさしさ・成長・好奇心を持って未来を創って欲しいとのメッセージをいただきました。




ポートフォリオ発表会は 22 名、総合診療セミナーは医学生も含め 32 名の参加がありました。終了後のアンケートでは「とても満足」「やや満足」と回答いただいた方が、ポートフォリオ発表会では 100%（回答数 15）、総合診療セミナーでは 94.7%（回答数 19）といずれも高い評価を受けました。

最後に、参加されていた本田壮一先生（徳島県美波病院）より、11 月 20、21 日の地方会について紹介があり、この中で予定されているポートフォリオ発表会にもぜひ演題を出して欲しいとのアナウンスがありました。
次回は、11 月 5 日（土）13:00～ポートフォリオ発表会のみ開催予定です。

## ★5　医学生サマーセミナーを開催

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座（愛媛）川本　龍一

令和 4 年 8 月 20 日（土）12：00～16：00 にサマーセミナーを開催しました。今回の医学生サマーセミナーは、愛媛大学地域枠、自治医科大学、産業医科大学、富山大学、山梨大学、滋賀医科大学、東北大学の医学生、総勢 39 名が参加しての開催でした。本来なら夏季は地域の医療現場での活動や懇親会を通しての交流が行われる予定でしたが、今年も Web 会議方式で代用させていただきました。

最初はランチョンセミナーとして、愛媛大学医学部附属病院総合診療科助教の菊池明日香先生から先生のお得意分野である「コミュニケーションを学ぼう：やさしい結果の伝え方」ということでお話いただきました。検査結果などを伝える際に患者さんがきちんと理解しているか、どのような解釈をしているかを確認しながら伝えることの重要性についてわかりやすく説明いただきました。

次は、地域医療学講座助教の二宮大輔先生の司会による「地域枠と自治医大卒業生による初期研修医の現状報告」と題してご講演をいただきました。各先生が、それぞれの研修病院で充実した研修生活がおくれている様子や学生時代に何を準備しておけばいいかなど医学生にとって非常に参考になるお話をいただきました。

次の講演では、愛媛県立中央病院 総合診療部長の杉山 圭三先生を司会として愛媛県今治市と久万高原町、西予市の行政官と病院の院長先生より地域の特徴と魅力などについて現状報告と将来の構想をお話いただきました。今治市はタオル産業やしまなみ海道などの観光資源の豊富な所、久万高原町は林業農家が多く、避暑地として有名であり、さらに西予市はジオパークに認定された地質学的にも学術価値の高い風光明媚なところです。各講師から少子・高齢化社会における様々な課題の取り組みを紹介いただきました。その後、愛媛県立南宇和病院内科部長の三瀬 順一先生を司会として公益財団法人正光会御荘診療所所長の長野 敏宏先生から「愛南町における精神医療保健福祉と地域づくりの試行錯誤」と題して、精神科の患者さんを中心とした地域包括ケア活動についてお話いただきました。患者さんの入院を廃止し、地域で生活していくことを支える仕組みについて地域をあげての取り組みを紹介されました。すでに世界からも注目されている取り組みであり、学生も非常に感銘を受ける内容でした。

**1．日　程**

○日　時：令和4年8月20日（土）　12:10～16:30
○会　場：WEB開催（Cisco Webex）
○スケジュール：

| 時　間 | 内　　容 |
|---|---|
| 11：45～ | WEB会場入室 |
| 12:10～12:50<br>（40分） | ランチョンセミナー（各自昼食を食べながら）<br>テーマ：「コミュニケーションを学ぼう：やさしい結果の伝え方」<br>愛媛大学医学部附属病院総合診療科助教<br>菊池 明日香先生 |
| 12:50～12:55<br>（5分） | 休　憩 |
| 12:55～13:00<br>（5分） | 事務連絡・アンケートツールの説明 |
| 13:00～13:05<br>（5分） | 開会挨拶<br>愛媛大学医学部地域医療学講座教授<br>川本 龍一先生 |
| 13:05～13:30<br>（25分） | 初期研修医の現状報告<br>司会　愛媛大学医学部地域医療学講座助教<br>二宮　大輔先生<br>・自治医大卒業生<br>・愛媛大学地域枠卒業生 |
| 13:30～14:40<br>（70分） | 地域医療の現状　行政と病院からの紹介<br>司会　愛媛県立中央病院総合診療部長<br>杉山 圭三先生<br>・今治市　　愛媛県立今治病院<br>・久万高原町　久万高原町立病院<br>・西予市　　西予市立西予市民病院 |
| 14:40～14:50<br>（10分） | 休　憩 |
| 14:50～15:20<br>（30分） | 特別講演<br>司会　愛媛県立南宇和病院内科部長（地域包括医療センター長）<br>三瀬　順一先生<br>テーマ：「確認中」<br>公益財団法人正光会御荘診療所長<br>長野　敏宏先生 |
| 15:20～16:25<br>（65分） | 学生発表<br>「地域医療で、将来こんなことがしたい」<br>課題説明<br>愛媛大学医学部地域医療学講座教授<br>川本 龍一先生 |
| 16:25～16:30<br>（5分） | 閉会挨拶<br>愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター長<br>高田 清式先生 |

3

ワークショップはできませんでしたが、学生には「地域医療で、将来こんなことがしたい」をテーマに各自１分ほどで述べてもらいました。「地域に溶け込み、患者さんの身近な存在として活動したい」、「在宅医療が行いたい」、「終末期医療に携わりたい」、「病気全般を診れる医師になりたい」などプライマリ・ケアの理念に合った思いを多くの学生が抱いていました。

最後に、愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター長の高田 清式先生からご挨拶をいただきました。その中で、愛媛大学地域枠や自治医大卒業生などのキャリア支援についてお話いただきました。